

## 1. 乳腺腫瘍科の特色

近年増加している「がん」のなかで、乳がんは代表的な悪性疾患のひとつです。生活様式の欧米化にともない罹患率では女性のがんの第1位となり、遺伝性素因の話題もあいまって医学会のみならず大きな社会問題になりつつあります。最近のデータでは、年間5万人が新規に乳がんと診断され、推定では12人に1人が乳がんにかかるといわれています。そのような疾患を診療する乳腺腫瘍科は社会的にも重責を担っている診療科であり、これからの伸びが期待できる“promisingな科”であるといえます。

乳腺腫瘍科という診療科のネーミングからは外科系に属するのか内科系に属するのかわかりにくいかもしれませんが、外科系に属しています。しかし、診療内容として外科の手技を身につける以外にも、診断面では画像の読影技術や、病理学的知識の習得が必要ですし、治療面では内分泌療法、化学療法および緩和医療に至るまで幅広い知識を身につけることができます。また、患者さんのほとんどが女性であり、乳房という女性を象徴する臓器を取り扱うことから形成外科の要素も含んでおり、外科のなかでは最も繊細さを要求される診療科ともいえます。また、研究面では、乳がんは全てのがんのなかで最も進んでいる疾患領域でもあります。その理由は、まず患者数自体が多いということ、また薬物療法がよく効くがん種であり、体表の腫瘍であるため検体の採取も容易なこと、治療効果が見えやすいという研究成果を速やかに得るために圧倒的な利点があるからです。近年流行の分子生物学的研究もたいへん進んでおり、日高キャンパスの国際医療センターには最先端の研究を担うゲノムセンターが隣接しており、トランスレーショナルリサーチの成果を上げるにはまたとないよい環境にあるといえます。

## 2. 診療科の体制

埼玉医科大学病院における研修は、外来診療（検査・診断・良性疾患のフォローアップなど）を行い、乳がんの治療（手術・入院管理・薬物療法など）については、国際医療センター乳腺腫瘍科で行います。

### 埼玉医科大学病院 乳腺腫瘍科

診療部長・研修責任者・教育主任	竹内 英樹 * (講師) 日本乳がん学会乳腺専門医
スタッフ医師	浅野 彩 * (助教)

### 国際医療センター 乳腺腫瘍科

包括的がんセンター長・研修責任者	佐伯 俊昭 (教授) 日本乳がん学会乳腺専門医
診療部長・教育主任	大崎 昭彦 * (教授) 日本乳がん学会乳腺専門医
外来・病棟医長	上田 重人 (助教) 日本外科学会外科専門医
スタッフ医師	竹内 英樹 * (講師) 日本乳がん学会乳腺専門医
	廣川 詠子 (助教) 日本形成外科学会専門医
	杉谷 郁子 (助教)
	島田 浩子 (助教)
	浅野 彩 * (助教)
	山口 慧 (助教)
	貫井 麻未 (助教)

\* 埼玉医科大学病院・国際医療センター兼担

### 3. 診療実績

国際医療センターは2007年4月に開院しました。原発性乳がんの手術数は2007年の227例から年々増加し、2014年は501例で全国でも有数の high volume center となりました。2008年から先進医療としてセンチネルリンパ節生検 (SNB) の施行が承認され、放射性同位元素と色素を用いた日常診療としてSNBを施行しています。その結果、約80%の割合で腋窩リンパ節郭清の省略が行われています。また、乳房再建を希望される患者も増え、2014年は70例、乳房切除症例231例の30%に1次乳房再建術が施行されました。これは国内の大学病院ではトップクラスの再建率であり、当科はスタッフに形成外科学会専門医を擁し、自科内で施術しているのは大きな特徴です。

- \*スタッフの既留学先：アメリカ国立衛生研究所 (NIH)、カリフォルニア大学、スローン・ケタリング記念がんセンター、ニューヨーク大学マウントサイナイ病院、ダナ・ファーバーがん研究所、ハワイ大学、ワシントン大学、センメルワイズ大学、ペーチ大学、ハンガリー国立がんセンター
- \*連携病院：丸山記念総合病院、豊岡第一病院、佐々木記念病院、東松山医師会病院、至聖病院、秩父病院、岡村記念クリニック、はたなかクリニック、さやま総合クリニック、たかだクリニック、都立駒込病院、間柴医院、三井病院



乳腺腫瘍科構成医員



カンファレンスの様子

### 4. プログラムの目的と特徴

後期研修（専修医）プログラムの内容は、基本的な外科手技の習得、乳がんの画像診断技術の習得、薬物療法（化学療法、内分泌療法、分子標的薬剤による治療）の知識の習得、インフォームドコンセントや緩和医療を含めたがん患者に対する診療の全般的知識を身につけるということです。

具体的には、外科専門医を取得し、がん治療認定医、マンモグラフィ読影認定医、並びに乳腺認定医・専門医を取得するコースになっています。外科専門医は呼吸器外科・心臓外科・消化器外科・小児外科の修練と業績が必要ですので、国際医療センター・大学病院・関連施設の各外科部門と協力して外科専門医取得を目指します。また、がん治療認定医は内科系の腫瘍学の経験が必要なため、腫瘍内科や造血器腫瘍科へローテーション研修を行います。この間に、マンモグラフィ読影認定医を取得します。乳がん診断に必要なマンモグラフィの読影技術を磨くため、乳がん検診に参加し放射線画像診断について研修します。さらに乳腺病理学についても3～6ヶ月の研修を行います。

乳腺腫瘍科は乳がん診療に特化した診療科ですが、本コースで習得できる技術や経験は多岐にわたります。また他科へのローテーションを組み入れることで、さらなる知識や経験を補うことができます。乳腺専門医（外科）に関わる各種認定・専門医を効率的に取得することが可能なコースです。

## 5. 取得可能な資格

卒後 5 年目以降

マンモグラフィ読影認定医、外科専門医、日本乳がん学会乳腺認定医、がん治療認定医

卒後 7 年目以降

日本乳がん学会乳腺専門医

## 6. 乳腺腫瘍科ホームページ

<http://saitama-med-bre.sakura.ne.jp/>

最新情報を知りたい方はホームページを閲覧ください。

## 7. 連絡先

大崎昭彦

埼玉医科大学国際医療センター 乳腺腫瘍科

〒 350-1298 埼玉県日高市山根 1397-

1 TEL : 042-984-4670

FAX : 042-984-4672

E-mail : aosaki @ saitama-med.ac.jp



超音波ガイド下マンモトーム検査



チームロゴマーク

## 8. その他

乳腺腫瘍科の患者さんのほとんどが女性です。そのため診療面でのきめ細かな配慮が必要であり、看護師を始めとする他職種との協調を大切にしています。職種と科を越えたチームワークの構築のために「ブレストケアチーム」を設立し、現在積極的に活動を行っています。研修中にチーム医療についても経験を積むことができます。



手術の様子



豚皮を用いた縫合練習会